

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和02年度（2020年度）		授業科目	人文社会科学（地域資源と文化）（0522）	
科目基礎情報							
科目番号	5Z04		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位： 1			
開設学科	産業システム工学科環境都市・建築デザインコース		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	『地域資源発掘シリーズ 佐賀 柳町』（うなぎの寝床出版）						
担当教員	齋 麻子						
到達目標							
さまざまな時代および地域の文化を理解する。 未来の地域資源の可能性を自分なりに考察することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	さまざまな時代および地域の文化を理解することが主体的にできる。		さまざまな時代および地域の文化を理解することができる。		さまざまな時代および地域の文化を理解することができない。		
評価項目2	未来の地域資源の可能性を自分なりに考察することが十分できる。		未来の地域資源の可能性を自分なりに考察することができる。		未来の地域資源の可能性を自分なりに考察することができない。		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1							
教育方法等							
概要	【開講学期】春学期週2時間、夏学期週2時間 「吉野（奈良）」＝「山」「桜」「春」、「宮城（宮城）」＝「野」「萩」「月」「秋」など、ある土地（地名）には共通する一定のイメージがあり、それを歌枕・名所としてイメージが受け継がれてきた。また、『源氏物語』のように、物語上で生み出されたキャラクターが、長い時を隔てても廃ることなく、あるイメージを想起させながら、愛され続けている。これらのいわゆる“古典”は、運かいにしえの事象ではなく、現在もなお、商品名や観光資源として利用され、我々の身の回りに息づいている。 授業では、古典としての西行や芭蕉がたどった名所から現代のNHK大河ドラマや朝の連続テレビ小説まで、観光としての地域資源の成り立ちを考察する。また、『源氏物語』の光源氏、『伊勢物語』の在原業平から、ゆる						
授業の進め方・方法	・講義形式の授業ではいくつかの事例を紹介する。 ・グループワーク、個々での活動を通して、新たな事例を見つけ、新たな地域資源の可能性を考察する。						
注意点	教科書は事例紹介や自らの考察の元になる資料であるため、事前に読み、理解しておくこと。授業のテーマに関し、文献やインターネット等で能動的に調査し、考察すること。休日を利用して実地踏査も行う。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・地域資源とは、文化とは、文学とは		提示された課題を把握できる。		
		2週	安野光雅『旅の絵本』を読み解く①		絵から情報を読み取ることができる。		
		3週	安野光雅『旅の絵本』を読み解く②		絵から情報を読み取ることができる。		
		4週	安野光雅『旅の絵本』を読み解く③発表		読み取った情報を他者に伝えることができる。		
		5週	日本における歌枕・土産		名所・歌枕を理解できる。		
		6週	NHK大河ドラマ・朝の連続テレビ小説と地域おこし①		テレビドラマと地域おこしの関係を把握することができる。		
		7週	NHK大河ドラマ・朝の連続テレビ小説と地域おこし②		テレビドラマと地域おこしの関係を把握することができる。		
		8週	地域資源と文化を考える①身近な地域資源を発掘する		自らの地元にある地域資源に着目できる。		
	2ndQ	9週	古典文学にみるキャラクターの普遍性、元祖キャラクターグッズ①		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。		
		10週	古典文学にみるキャラクターの普遍性、元祖キャラクターグッズ②		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。		
		11週	普遍的なキャラクターと一過性のキャラクター①		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。		
		12週	普遍的なキャラクターと一過性のキャラクター②発表		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。自らが調査したことを発表できる。		
		13週	ゆるキャラと地域資源の未来①		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。		
		14週	ゆるキャラと地域資源の未来②		地域資源とキャラクターグッズの関係を把握できる。		
		15週	地域資源と文化を考える		自らの地元にある地域資源の活用を考えることができる。		
		16週	レポート課題返却と解説		これまでの活動を振り返ることができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	レポート提出	課題提出					合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0